

地域における適応リーダー育成のための研修会の実施 (案)

1. 目的

今後各地域において、適応の普及を担い、市民参加による気候変動影響事例調べを実施する際の指導者の育成と、同取組の地域での活用方法の探求のため、研修会を実施する。

2. 研修会の概要

【実施場所】

- ・ 施設名：ドーンセンター 4階 大会議室3 (128㎡ 定員72人)
- ・ 住所：〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号
- ・ 最寄駅：京阪「天満橋」/地下鉄谷町線「天満橋」/JR東西線「大阪城北詰」駅

【対象者】

- ・ 地球温暖化防止活動推進員、地球温暖化防止に取り組む団体関係者等

【カリキュラム案】 2月21日(火) 13時30分～17時30分 4時間実施

※ 予め事前学習していただくため、事前に研修参加者に手順書と調査票を送り、調査票は予め記入していただき、参加者に当日持参頂く。

時間	内容	目的	担当
13:30～13:35	■開会 主催者あいさつ	目的の共有	近畿地方環境事務所
13:35～14:00	■講義 適応について 畑中直樹 (株)地域計画建築研究所(アルパック)役員 大阪事務所副所長・和歌山大学システム工学部非常勤講師	適応について学び、理解を深める	
14:00～15:15	■グループワーク(1) 気候変動影響事例調べ	・事前学習を行った手順書の解説を行い、体験と通して進め方を共有する ・地域の影響事例を可視化する	アルパック
15:15～15:25	休憩		
15:25～16:50	■グループワーク(2) 地域での活用方法について	・地域で気候変動影響事例調べを活用する際の改善点と活用法を考える ・アイデアを実現するための方法を考える	
16:50～17:25	■発表	本日のグループワークの成果を共有し、活用する	
17:25～17:30	■閉会		近畿地方環境事務所

【カリキュラム案 詳細】

時間	内容	目的・進め方	所要時間	詳細な内容
13:30 ～13:35	■開会	・研修の意義と目的の共有	5分	目的説明 ・地域の気候変動影響のモニタリング、影響の原因や対策、適応策の検討など具体的に検討し、次の行動につながる具体策を考える。
13:35 ～14:00 [25分]	■講義 適応について	・地域住民自らが地域における影響を学び、考えるために、適応そのものの理解を深める (仮)	10分	・気候変動について(あるいは環境省の14分動画を使う) 世界/日本/(各地域)の気温変化、将来の気温、海面水位の変化予測など
			15分	・適応について(適応策の必要性、導入状況、基本的考え方など) 講師:畑中直樹(株)地域計画建築研究所(アルバック)役員 大阪事務所副所長 和歌山大学システム工学部非常勤講師
14:00 ～15:15 [75分]	■グループワーク (1) 気候変動影響事例調べ	・事前学習を行った手順書の解説を行い、体験を通して進め方を共有する ・地域における気候変動による影響事例を可視化する	5分	本日の進め方と手順書をもとに意義について説明
			70分	手順書の進め方を使用する資料を実際に見ながら解説するとともに、事前配布及び記入済みの調査票を用い、各班毎に表及びマップの作成を体験する。 (表及びマップのまとめ用の模造紙は予め事務局にて準備する) 【地域ごとまたは近いエリアの参加者に分け、グループワークを実施】 ①【解説】気候変動影響事例探しワークショップの流れについて(10分) ②【体験・解説】ワークショップを実際に体験する(35分) ・事前に記入頂いた調査票に基づいて、各自が付箋に影響事例について書き出す(10分) ・班の中で各自が書き出した影響事例や適応策を発表し、共有する(25分) ③【体験・解説】発表準備(15分) ・各班で出た影響事例を整理し適応策を考える ・影響事例等で追加したいこと意見出し ・発表者を決め、発表準備を行う ④【解説】②～③の流れについて、及び振り返りシートについて(10分) ・振り返りシートを準備し、休憩後のワークショップに向けた頭出しを行う ・振り返りシートの内容は体験を通して、①影響事例調査シートについて②ワークショップでの表やマップへの整理について③発表準備について④地域で適応策についての理解を深め・広めるためのワークショップの活用方法やアイデアなどについて記入
15:15 ～15:25	休憩		10分	休憩の時間を利用して、ふりかえりシートの記入
15:25 ～16:50 [85分]	■グループワーク (2) 地域での活用方法について	・自分たちの地域で気候変動影響事例調べを活用するにあたり、改善点と地域にあう活用方法を考える	50分	【解説+体験を元に、自分たちの地域でワークショップを実施する際の改善点と地域での活かし方を考える】 ①ワークショップの流れについて(5分) ②地域で行う際の改善点や地域での活かし方について(20分) ・ふりかえりシートに基づいて、体験の改善点や地域で適応策についての理解を深め・広めるためのワークショップの活用方法やアイデア(振り返りシートの内容を付箋に書き出す) ③②のアイデアを班で発表し共有(20分) ～各班で適宜5分程度休憩～

		・アイデアを実現するためのワークショップを考える	35分	<p>【アイデアを実現するためのワークショップを考える】</p> <p>① (1) で出されたアイデアの中から実現に向けて具体的に考えるテーマを決める (5分)</p> <p>② (1) の地域で適応策についての理解を深め・広めるためのアイデアを実現するためのワークショップの方針を考える (20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が (主催者、協力者) ・誰に (対象) ・何のために (目的) ・いつ (実施時期) ・どこで (場所) ・どのように (ワークショップのプログラムの構成案) <p>③発表準備 (10分) 発表者決定・模造紙整理</p>
16 : 50 ~17 : 25 [35分]	■発表	本日のグループワークの成果を共有し、活用する	35分	<p>①各班からの発表 (5分×6地域)</p> <p>②まとめ</p>
17 : 25 ~17 : 30	■閉会		5分	